

★ 茶 カンザワハダニ情報

1 発生状況

平成21年10月13日～15日に実施した巡回調査における、カンザワハダニの発生状況は下表のとおりでした（表中網掛け部分）。

山城では、寄生葉率、成虫数、幼虫数、合計数、発生ほ場率とも過去10年の同時期の値と比較すると、最も多い（高い）値となっています。

丹波でも、寄生葉率、発生ほ場率は最も多く（高く）、成虫数、幼虫数、合計数でも平成15年に次ぐ多い値となっています。

10月16日に大阪管区气象台から発表された1ヶ月予報では、気温は高いと予想されており、越冬前の密度が高くなることが懸念されます。

表 平成11年から21年のカンザワハダニ発生状況（10月中旬）

地域	平年比	項目 \ 年次	平年比	H21	平年	H20	H19	H18	H17	H16	H15	H14	H13	H12	H11	
山城	多	寄生葉率(%)	多	6.6	1.4	0.0	0.6	1.6	4.4	3.5	0.6	2.4	0.6	0.3	0.4	
		成虫数	多	21.3	2.1	0.0	0.8	2.2	5.5	5.4	1.0	4.5	0.5	0.3	0.4	
		幼虫数	多	23.0	1.5	0.0	0.0	0.1	6.6	5.5	0.1	1.8	0.7	0.0	0.0	
		合計	多	43.4	3.6	0.0	0.8	2.3	12.1	10.9	1.1	6.4	1.3	0.3	0.4	
		発生ほ場率(%)	多	72.7	25.0	0.0	22.7	36.4	54.5	31.8	18.2	45.5	18.2	9.1	13.6	
丹波	多	寄生葉率(%)	多	9.0	1.8	0.0	0.7	0.7	1.3	0.3	11.7	1.3	0.3	0.7	0.7	
		成虫数	やや多	13.0	4.2	0.0	1.7	0.3	2.0	0.7	33.7	2.0	0.3	0.7	0.7	
		幼虫数	やや多	14.3	4.4	0.0	0.0	0.3	1.0	5.7	33.7	3.0	0.0	0.0	0.0	
		合計	やや多	27.3	8.6	0.0	1.7	0.7	3.0	6.3	67.3	5.0	0.3	0.7	0.7	
		発生ほ場率(%)	多	83.3	30.0	0.0	33.3	33.3	66.7	16.7	50.0	50.0	16.7	16.7	16.7	
丹後	〃	寄生葉率(%)	〃	0.0	0.0	0.0	0.0									
		成虫数	〃	0.0	0.0	0.0	0.0									
		幼虫数	〃	0.0	0.0	0.0	0.0									
		合計	〃	0.0	0.0	0.0	0.0									
		発生ほ場率(%)	〃	0.0	0.0	0.0	0.0									

2 越冬生態

カンザワハダニは気温が低下すると、株の内部やすそ部に移動し、雌成虫で越冬し、翌春の発生源となります。越冬期の雌成虫は休眠態で体色は朱色で産卵はしません。

2～3月には休眠から覚醒し、体色が赤色～濃赤色となり活動を開始します。

3 防除

翌春の一番茶期の発生を抑えるには、越冬前の防除が有効です。越冬前の防除が十分でないと、翌春の一番茶期間近に発生が多くなり、防除に苦慮する場合があります。

茶園をよく見回り、越冬前防除の徹底を心掛け、遅くとも11月末までに終えるようにしてください。